



三原バイパス第4トンネルの工事が始まる

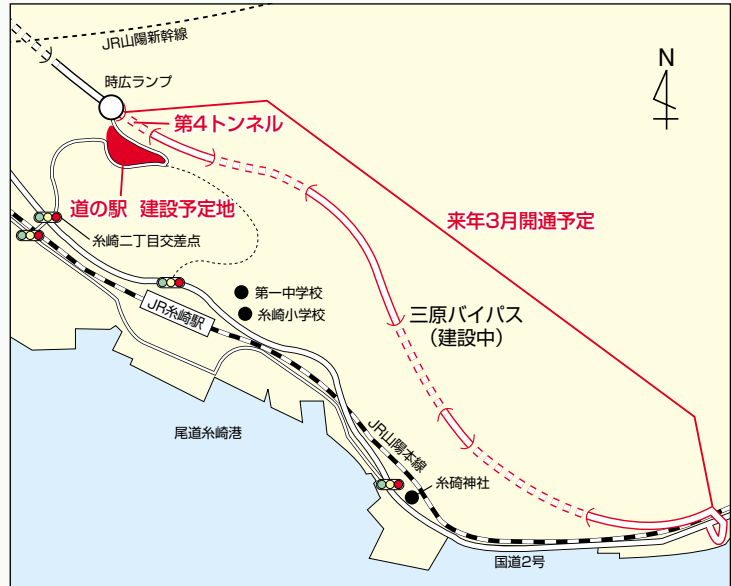
国土交通省が建設を進めている一般国道2号三原バイパス(全長9.9km)のうち、未開通区間の西端にある第4トンネルの掘削工事が、12月22日から始まりました。トンネルの全長は163mで、今年夏の貫通をめざして作業を進めています。

三原バイパスには10個のトンネルがあり、今回が最後のトンネル工事となります。

三原バイパスの全線開通は、来年3月の予定で、この開通により道路網の東西軸ができあがり、これまで課題とされてきた国道2号の渋滞の緩和と、新たな物流経路の確立につながることを期待されます。

また開通に併せて、バイパス沿いに道の駅を整備する予定です。道の駅には、瀬戸内の多島美を展望するスペースや地元の

特産物販売コーナーなども設ける予定としており、県が進める「瀬戸内 海の道構想」との相乗効果でにぎわいを創出していきます。



問い合わせ先 土木管理課 (☎0848⑥76100 FAX 0848⑥46057)

郷土を愛する心をはぐくむ三原塾を開催

郷土を愛する子どもの育成事業として昨年度から開始した三原塾を、今年度、大和中学校と沼田東小学校でそれぞれ開催しました。

12月17日に行われた大和中学校では、1年生44人を対象に、五藤市長と檜山教育長が三原の現状と歴史、教育などについての講話をし、生徒との交流を図りました。

五藤市長からは、市の概要や三原自慢、名誉市民、ふるさと大使などを紹介。また、めざすまちづくりとして、一人ひとりが輝くまち、幸せを実感できるまち、活力のあるまちづくりの理念を語り、「より良い習慣を身に付けてください」とメッセージを送りました。

また、檜山教育長からは、市内の小・中学校の状況や弁論大会などの行事の紹介、脳の活性化を促すため、早寝・早起き・朝ごはんなどを勧める金のルールの重要性や、好奇心を持つこと、失敗してもくじけないこと、感動する心を持つことを伝えました。

生徒らから、「中学生の読書におすすめの本は」

「大和中学校に期待するものは」などの質問があり、「感動する本、涙する本に触れてほしい。そして日本一の中学校になってください」とエールを送りました。最後に、全員で市歌を斉唱し、終了しました。

授業に参加した引村冴里さんは、「市の人口や市章のできた成り立ちなど、知らなかったことが理解できて良かった」と感想を述べました。

市では、市内の小・中学生に対し、市の伝統や文化を伝え、郷土三原への愛着心をはぐくんでもらうため、この三原塾の事業を今後も展開していきます。



▲全員で市歌を斉唱しました

問い合わせ先 学校教育課 (☎0848⑥76154 FAX 0848⑥75912)

